

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|---------|------------|
| 事業所番号 | 4079900223 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 鷹羽会 | | |
| 事業所名 | グループホーム しじみ苑 | | |
| 所在地 | 福岡県田川郡大任町大字今任原3484-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年1月7日 | 評価結果確定日 | 平成23年3月22日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年1月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームしじみ苑」は閑静な環境の中、自然に恵まれ、木造平屋建てのゆったりとしたバリアフリーの住環境も整っている。近くには小学校や保育園もあり、併設のケアハウスとの交流も多く、人とのふれあいの場を多く持てる施設である。施設全体の事業方針として「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を掲げ、奉仕と思いやりの精神で日々利用者者と接している。職員の施設内研修にも力を入れ、職員一人一人がスキルアップし、質の良い介護を提供できるように努めている。また、訪問看護を取り入れ、医療面での充実を図っている。家族を交えての行事や、面会毎に利用者の状況報告をするようにしており、利用者、家族、職員、医療関係者が連携して安心した生活を送って頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームしじみ苑」は四方が見渡せる小高い丘にあり、季節の移り変わりを感じる事が出来る住環境が提供されている。地域住民である職員も多く、地域行事や近隣にある小学校・中学校・保育所との交流の際には、親近感のある対応が行われている。職員は全員常勤での採用となり、安定した雇用形態の中で馴染みの関係作りが行われており、有給での外部研修を促し、また内部の研修も職員個々が主体的に関わる等、サービスの向上にも積極的である。各会議の議事録は正確に残され、全員へ周知を図られている。困難事例も家族と話し合いを重ね、運営推進会議でも逐一報告をしながら、家族や出席者との情報共有を図り、積極的に意見やアドバイスを求めており、開かれた事業所としての取り組みがある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|--|---|---|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

| 自己評価および外部評価結果 | | | | |
|-----------------|-----|--|---|--|
| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 |
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「ひとりみんなのため、みんなはひとりのために」という管理者の思いを込めた理念を朝のミーティング前に職員一同で声に出して斉唱し、奉仕の精神をもって一日の始まりとしよう自分たちの気持ちに命じている。 | 地域との連携と家族との関係を大切にという相互扶助の精神と、個人の尊重という考え方で理念が作成されている。理念のもとに、職員個々の目標を掲示することで、共有と実践につなげている。 |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 近隣には保育園、小学校があり、年数回の訪問をお互いに楽しみにしている。神幸祭で地域の神輿が訪れ、一緒に踊ったり、文化祭、敬老会に参加したり、併設のケアハウスの方々との交流も楽しみの一つである。 | 職員の多くが地域住民でもあるので、地域の行事や小・中学校の運動会等に参加した際には、親近感を持った対応が行われている。「読み聞かせ」やフラダンス等、ボランティアの来訪や、中学生の職場体験を受け入れている。 |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 特別な取り組みは行っていないが、運営推進会議などを通して行政や地域の民生委員、区長さんに相談を行い、交流に取り組めるように努める。 | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、行政職員、区長、民生委員、家族などで構成され、2ヶ月に1度開催している。事業報告や入居者の生活状況の報告を行い、アドバイスを受けている。 | それぞれのユニットから家族数名の出席があり、積極的な意見交換が行われている。地域代表や民生委員、行政からの情報提供やアドバイスを受け、運営に活かしている。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 同じ市町村民である代表者、スタッフとの交流があるので、会議以外でもわからない事があれば相談し、話し合いの機会を持ちサービスの向上に努めている。 | 運営推進会議において、事故報告・ヒヤリハットの経過報告を行っている。事業所の対応が明確となり、その場で助言を受ける機会となっている。また、困難事例や制度等について相談している。 |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内で研修を行い、職員全体が身体拘束をしないケアを理解し認識している。 | 2ヶ月ごとに職員が主体的に関わる研修が実施されており、より効果的に理解を深め、認識の共有が図られている。日中の施錠は行われていない。 |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内研修を行い、職員全体が高齢者の虐待防止を認識しており、入居者がその人らしいペースで生活できることを重視している。 | |

福岡県 グループホーム しじみ苑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度などに関するパンフレットは常時玄関に置き、家族など誰でも見られるようにしている。職員の研修への参加も図っている。家族からの相談はいつでも聞ける体制を取っている。 | 外部講師のアドバイスにより、玄関の目に付きやすい場所に、権利擁護に関する制度のパンフレットを常設している。成年後見制度や日常生活自立支援事業について、行政等の主催する研修に参加し、情報提供が行える体制作りに努めている。 | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前には、重要事項などをわかりやすく説明して起こりうるリスクや医療連携体制については同意を得られるよう説明している。 | | |
| 10 | (7) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者、家族が意見、要望を言える信頼関係を築くよう努力している。要望があればいつでも話し合いができるよう対応している。 | 毎月の便りと共に、運営推進会議の予定日を案内し、参加を呼びかけており、家族の参加も多い。会議の中でも、率直な意見交換が行われている。 | |
| 11 | (8) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月職員会議を開催し、代表者、管理者、主任、職員が入居者の状態を報告しあい、よりよい対応ができるよう意見を出し合う。また、意見の言いやすい環境を作り、運営に生かしている。 | 全員出席を前提とした職員会議における、意見や提案、活発な討議内容も詳細に記録されており、運営に反映させている。会議に参加できない夜勤職員にも周知が図られている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、資格取得など職員が自らの質の向上を促し、その意欲認め、把握することに努めている。また労働時間を守り、オーバーワークにならないよう指導している。 | | |
| 13 | (9) | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 募集、採用に当たっては、年齢、性別などの制限はなく、ヘルパー2級取得を基本としている。本人の意欲や入居者とのなじみの関係を考慮し採用の際は代表者と管理者が決定している。採用後は介護福祉士の取得をお願いしている。 | 職員全員が常勤採用となり、年齢や性別により採用対象から排除しないようにしている。有給による外部研修参加を促し、個々のスキルアップへのサポートを行っている。事業所の決定事項も、職員全員参加の会議での審議・報告が行なわれ、モチベーションアップの確保につながっている。 | |
| 14 | (10) | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 研修の機会は少ないが、日々のケア、サービス提供、会議の際に、入居者への対応、コミュニケーションについて話し合っている。 | 高齢者虐待防止やプライバシー、認知症ケアについての内部研修や、会議等の機会を通じて、入居者の人権尊重について、様々な視点から話し合いを行っている。 | |

福岡県 グループホーム しじみ苑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職種に応じた研修に参加出来るよう配慮している。研修報告と勉強会をそのつど行い、職員全体が共有できるよう取り組んでいる。 | | |
| 16 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修や病院(医療)研修などに参加して情報やネットワークに取り組めるよう働きかけている。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者それぞれの性格を把握し、その人に合った関わりに努めている。日頃の日常会話の中にその人の思いをくみとり、不安を取り除くよう職員間でも話し合っている。 | | |
| 18 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が遠慮なく相談してもらえる環境を作り、施設に対する不安や要望を遠慮せず言ってもらえるよう日頃からコミュニケーションをとっている。 | | |
| 19 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族がまず何を要望しているのか見極められるよう常にアンテナを張り、気づけるよう努めている。 | | |
| 20 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常に自分の家族だったら、という思いのもと接するよう指導している。決して上から目線にならないよう心がけている。 | | |
| 21 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の訪問時には必ず職員が対応し、入居者の最近の状況を報告し、また家族からの質問にもできるだけ親身に答える。家族と入居者の架け橋となれるよう気を配っている。 | | |
| 22 | (11) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 定期的に家族の面会があるので、自宅への外泊、外出を勧めている。外泊が困難でもドライブしたり食事に行くだけでも家族との関係が維持できる。 | 特に家族との関係性を大切にしており、お盆や正月を含む定期的な帰宅や、墓参り等の外出を行っている。入居前からのかかりつけ医との関係性を大切に支援している。 | |

福岡県 グループホーム しじみ苑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている | 毎日の食事やおやつ、レクの時間に職員が加わるこ とで入居者間の調整役となる。できるだけ会話が弾むよ う手助けしている。 | | |
| 24 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォ ロワーし、相談や支援に努めている | 馴染みになった関係を大切に、アドバイスできること にはしていきたい。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その人らしさを大切に、その人らしい生活ができるよ う支援していきたい。まずは本人の意向を優先したい。 | その人らしさを把握する為に、日常動作や会話の中 から情報を得ている。日々の経過記録や会議録が詳細 に残されており、職員間で共有している。 | 日々の経過記録や会議録が詳細に残されている。この 中の貴重な情報を、整理集約することで、生育歴や生 活歴と共に、思いや意向の情報を詳細に収集するこ とができ、また共有しやすくなると思います。 |
| 26 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | その方の生活歴、思い出などを理解し、日常の会話 からもその方の考えを尊重していきたい。 | | |
| 27 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中から何らかのサインを見逃さず、そ の方に合った生活ができるよう努めていきたい。 | | |
| 28 | (13) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している | 毎日の業務の中で得た情報を、会議などで話し合 い、家族にも伝える事で情報を共有し、よりよい介 護計画につなげるよう努めている。 | 具体的に記載されている介護計画は、看護計画の 内容ともリンクし、医療連携が活かされている。計 画内容は日々のケアチェック表に盛り込まれ、計画 に基づいた支援を実践されている。モニタリング・ 担当者会議等において職員間の検討が行われている。 | |
| 29 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている | その日の様子は細かく記録し、会話の様子や他者 との関わりなども記録に残すようにしている。引き 継ぎ時にはその様子を報告し、職員間で共有でき るようにしている。 | | |

福岡県 グループホーム しじみ苑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 毎日の生活の中、入居者との交流の中で得た情報をもとに各自のニーズを読み取り、傾聴し、希望や要求に応えられるよう努めている。家族の対応が無理な時は、職員で対応できるよう体制を整える。 | | |
| 31 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町、行政区、老人会、民生委員、校区の保育園、小中学校などしじみ苑を取り巻くすべての環境を活用し、交流できるようにその機会を見逃さないように努めている。 | | |
| 32 | (14) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は、入居前からの馴染みの病院であったり、家族と本人の納得のいくところに受信していただいている。基本的には家族に対応してもらっているが、無理な時は代行している。また、訪問看護、訪問歯科も利用していただいている。 | 入居前からのかかりつけ医や、本人、家族の希望を重視した受診支援が行われている。診察時には、毎日のバイタル表や介護・看護記録を含むファイルを持参し、適切な医療活用につなげている。 | |
| 33 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回、訪問看護を利用している。入居者、職員ともに気がついたことを質問でき、相談にのってもらい、健康管理や日々のケアに役立っている。 | | |
| 34 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 各医療機関のソーシャルワーカーや相談員と情報交換を行い、家族との連携で入居者の早期の退院に努めている。 | | |
| 35 | (15) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に説明を行い、相談に応じている。 | 入居時に「看取りに関する指針」を示し、説明を行っている。医療機関や協力施設との連携を図りながら、本人、家族との話し合いを重ねている。 | |
| 36 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 外部研修(消防署)を取り入れ、応急処置、手当、AEDの体験を取り入れている。緊急時、応急手当のマニュアルを作成し、周知徹底を行い、内部研修も行っている。 | | |

福岡県 グループホーム しじみ苑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回地域消防署の協力を得て避難訓練、誘導訓練、消火訓練を行っている。また、内部研修も実施している。 | 年2回、隣接する同法人施設と合同で、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、毎月、通報訓練も行っている。災害時対応についての研修実施や非常食も確保されている。 | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その日の体調や利用者の生活歴、性格を配慮して話しかけるよう努めている。親しみのある呼び名や出身地の言葉で声掛けしたりして親近感を持つよにしているが、本人の自尊心を傷つけないよう気をつけている。 | ミーティングにおいて、具体的な事例をもとに話し合う機会を持ち、職員間での共有認識としながら、日々のかかわりの中での対応や言葉かけ等について細やかな配慮が行われている。個別の時間の流れや空間についても認識を持ち、その人らしさへの配慮に努めている。 | |
| 39 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の話に耳を傾け、何がしたいのかしつくないのかを言える雰囲気を作るよう心がけている。食事でも今食べたくないと言われれば、時間をずらして食べてもらう。買い物も希望を聞いて支援している。 | | |
| 40 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務や職員体制にもより必ずしも希望に添えているかどうかわからない時もあるが、職員同士助け合いながらその人に合った過ごし方になるようけって無理強いすることなく支援している。 | | |
| 41 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人と職員が相談して本人の希望する洋服を選んで着て頂く。また、外出時だけでなく日頃化粧やマニキュア、髪型に気を配り、アドバイスもする。希望の美容室があればお連れする。 | | |
| 42 | (18) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日食事をおいしく食べていただけるよう旬の物を取り入れ季節感を出している。リハビリの一部として、豆の皮むきや、配膳、食器洗い、テーブル拭きなどそれぞれが出来るところを分担していただいている。おやつ作りに参加してもらうこともある。 | 食材の購入から調理、後片付けまで、それぞれの力に応じて、役割を担ってもらっている。職員も共に食卓を囲み、和やかな食事風景があった。行事食では、入居者の得意料理を披露してもらう計画もある。 | |
| 43 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 肉、魚、野菜などバランスよく採れるよう、新鮮で旬なものを中心に食材を選んでいる。高齢になると水分が不足するので食後やおやつ時、運動や入浴後にはこまめな水分補給を心がけている。 | | |

福岡県 グループホーム しじみ苑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後義歯をはずしていただき洗浄、歯磨きしています。本人には残った歯を歯ブラシに歯磨き粉をつけて歯磨き、うがいをしていただいている。 | | |
| 45 | (19) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個人別に排泄、水分シートを作成し、個人の排泄リズムを把握するよう努め、タイミングをみてトイレ誘導している。スムーズに排泄が行え、失敗をおそれないトイレ誘導を心がけている。 | 排泄リズムを把握すると同時に、その人なりのシグナルを察知して、トイレ誘導が行われていた。毎日の歩行訓練や足上げ運動を行い、排泄の自立を促す効果になっている。 | |
| 46 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排泄チェック表をつけ確認している。食事では食物繊維の多い食材を使用し、毎日の適度な運動を心がけている。それでも排便がない場合は服薬による調節を行う事もある。 | | |
| 47 | (20) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日は決まっているが、入浴の時間帯は本人に声掛けし希望を聞いている。入りたくないといわれても、無理強いはいしないが、なるべく入りたい気持のなるよう話しかける。 | ゆず湯や菖蒲湯など、季節に合わせた入浴を楽しんでいる。週3回の入浴日の設定はあるが、毎日入浴準備を行い、希望や体調に合わせている。 | |
| 48 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中レクリエーション、散歩、ケアプラン(運動)介助することにより、何事にも関心を持ち、他者や職員とコミュニケーションを図り夜間ぐっすり就寝出来るよう環境支援している。 | | |
| 49 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | それぞれの薬の処方箋は職員がすぐ確認できるところにファイルして置いている。薬が増えたり減ったりした時は、ケア記録に記録し、申し送りノートにて職員に伝わるようにしている。 | | |
| 50 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 1日のリズムが作れるようケアプランによる運動やレクリエーションを考える。誕生日にはその人の好物を用意してお祝いするなどその人らしさを尊重し喜んでもらっている。 | | |

福岡県 グループホーム しじみ苑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | <p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p> | <p>天気の良い日には外に出て散歩に出かけている。花見、紅葉など四季の移り変わりを感じてもらい買い物等にも行ける方には支援している。</p> | <p>かかりつけ医への受診の際には、希望により個別の買い物にも出掛けている。広い敷地を有し、ユニット間を行き来したり、広い庭やウッドデッキでの外気浴を楽しむことができる。</p> | |
| 52 | | <p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>自分でお金の管理や買い物ができる方には、自主的にしていただいている。そうでない方には家族の了解のもと、施設で管理し、本人のほしいものや、必要な物品を購入する手助けをしている。</p> | | |
| 53 | | <p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>本人の要望があればいつでも電話する事が出来る。またその手助けをしている。家族からの電話も取り次い伝言したりしている。</p> | | |
| 54 | (22) | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>家庭的な雰囲気の中、安心できるよう季節の物や懐かしい物を飾ったりしてなじみやすい雰囲気を心がけている。</p> | <p>高台に位置するためリビングは明るく、大きな南向きのガラス戸からウッドデッキへとつながる開放的な空間となっている。トイレの位置等、プライバシーへの配慮も感じられる造りとなっており、季節感や生活感を感じる飾り付け等、居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p> | |
| 55 | | <p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>リビングでくつろいでもらっているが、ひとりになりたい時はいつでも個室に戻れるように声かけもしている。ソファやテーブル席を利用して思い思いの場所で過ごすことができる。</p> | | |
| 56 | (23) | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>居室は出来るだけ自宅の部屋と変わらないように工夫し、使い慣れた家具や好みのもんをもってきてもらい置いている。季節のものや、自分の作品などを飾ったりもしている。</p> | <p>ベッドや箆笥・机等は、その方にとっての使い勝手のよい高さにあわせ、収納の工夫によりベッド周囲が整頓されている。家族の写真が貼られたり、作品が飾られたりと、安心して過ごせるよう居室づくりが行われている。</p> | |
| 57 | | <p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>自分でできること、わかることはしていただき任せる。できるだけ自立を促すが、いつでも手助けできる体制は整えている。</p> | | |